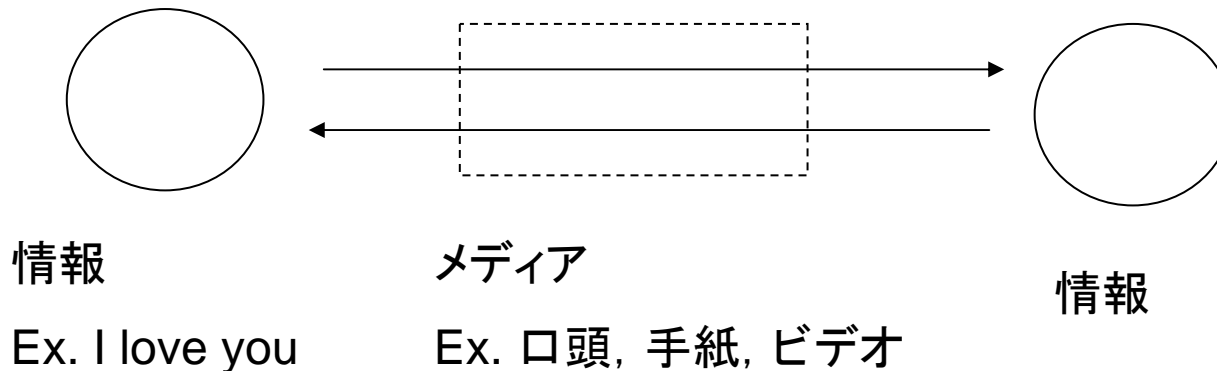

メディアデザイン 03

メディア論02
メディア特性

兼子正勝

復習

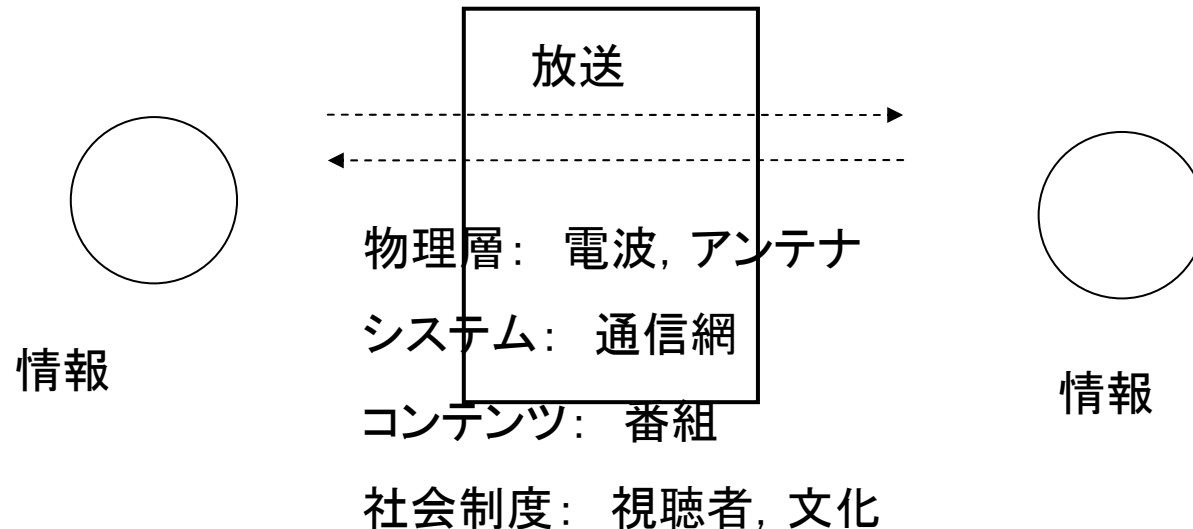
- メディア論の対象はメディアである
- 情報の伝達において、メディアの違いが意味を持つ



復習

メディア

情報伝達の際に、間に入って伝達を媒介するもの
物質, システム, コンテンツ等の総体



メディア技術史(概観)

- 声 0
- 文字 BC2500頃, シュメール, 楔形文字
- 活版印刷 グーテンベルク1447, 聖書の印刷
- 電信電話 モールス1837, ベル1876
- 映画 リュミエール1895
- ラジオ フェデッセン1906(放送実験)
- 商業放送1920, アメリカ大統領選挙
- TV ロージング1911TV送受信実験
- BBC1929, TV実験放送
- コンピュータ チューリング1936, ノイマン1945, Appell1977
- インターネット Arpanet1969, リー1991(www)
- ユビキタス? ?

整理の観点

◆ マクルーハン

- 印刷技術の重要性 「ゲーテンベルクの銀河系」1962
- テレビの解釈 「メディア論」1965

◆ ベンヤミン

「複製技術時代の芸術作品」(1934ー)

◆ ボードリヤール

「シミュラークルとシミュレーション」1981

マクルーハン

マーシャル・マクルーハン

Marshall McLuhan

(1911年7月21日 - 1980年12月31日)

カナダ. 1952年よりトロント大学教授. 英文学出身, メディアに関する理論を提唱



The Gutenberg Galaxy, 1962 (森常治訳『グーテンベルクの銀河系』竹内書店、1968年、みすず書房、1986年)

Understanding Media: The Extensions of Man, 1964 (栗原裕・河本仲聖訳『メディア論』みすず書房、1987年)

The Mechanical Bride: Folklore of Industrial Man, 1951 (『機械の花嫁』竹内書店)

The Medium is the Massage, 1967 (『メディアはマッサージである』)

『ゲーテンベルクの銀河系』(1)

- 軸となる考え方：人間の「感覚比率 sense ratio」。
 - 聴覚文化（話し言葉・口語）vs 視覚文化（書き言葉・文語）
- 二つの画期：表音文字・活字
- 文字・活字が人間の考え方にもたらした大きな変化を考える。

『ゲーテンベルクの銀河系』(2)

- 文字 表音文字(⇔表意文字) 表している音と、その画像表現・視覚表現たる文字のあいだに類似がない。→「表面の忘却」
文字と遠近法 解析学
- 分かち書き→階層的・逐次的な構造化(文字・語・文) 専門化→奴隷化 メ72
- 文字による聴覚的文化: 中世の写本文化。
線状的ではないような言語。写本の例

『ゲーテンベルクの銀河系』(3)

- 活字印刷術 → 「視覚」の優位の確立
 - 「視覚」＝「線條＝階層性」
 - 「表現」の囲い込み(←フーコー)
 - 読む者と書く者の分離 (著者と読者)
 - 共同体の変化 (脱部族化) 共同体に依存しない知の伝達→個人。均質な個人の集団としての国家。個人主義と国民国家の誕生の同時性

聴覚文化・視覚文化

	メディア	sens	伝達
聴覚文化	声	聴覚 非構造 呪術的	近隣 部族共同体
視覚文化	文字, 活字	視覚 構造 中性	遠く 脱部族 国家・個人
聴覚文化	電信		さらに遠く 超国家部族

『メディア論』(1)

- ・ テレビを論理に組み込む試み
- ・ 「クール／ホット」
- ・ 細密度, 参与度の観点
- ホット＝高精細度: 補う余地が余りない→参与を拒む (ラジオ・映画・本)
- クール＝低精細度 補う余地が大いにある→参与を引き出す (電話・テレビ・漫画)

『メディア論』(2)

	細密度	参与度	例
hot	高	低	ラジオ 映画 本
cool	低	高	電話 TV 漫画

* cool には「かっこいい」というニュアンスがある

** 再密度: definition

『メディア論』(3)

聴覚 (参与度)	視覚	(聴覚)
<ul style="list-style-type: none"> クール(低精細度・低速) 	<ul style="list-style-type: none"> ホット(高精細度) 	<ul style="list-style-type: none"> より機能的な。→「クール」モザイク*
	<ul style="list-style-type: none"> 外爆発 	<ul style="list-style-type: none"> / 内爆発 37
	<ul style="list-style-type: none"> 表現の線状的な枠組み 	<ul style="list-style-type: none"> / 枠組みそのものの更新
(速度)		
		<ul style="list-style-type: none"> 高速 / 瞬間性・同時性
	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが同じ速さ 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが「より速く」
	<ul style="list-style-type: none"> 課題・目的としてのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 前提・出発点としてのコミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> 課題の共有による共同性 	<ul style="list-style-type: none"> (手段の共有による共同性) モザイク化(素材の共有)
(社会)		
	<ul style="list-style-type: none"> 集団主義(部族) 	<ul style="list-style-type: none"> 個人主義(脱部族化) / ?
		<ul style="list-style-type: none"> →個人主義に基づく集団主義=近代国家)

© Kazuyuki HARA

マクルーハンの評価

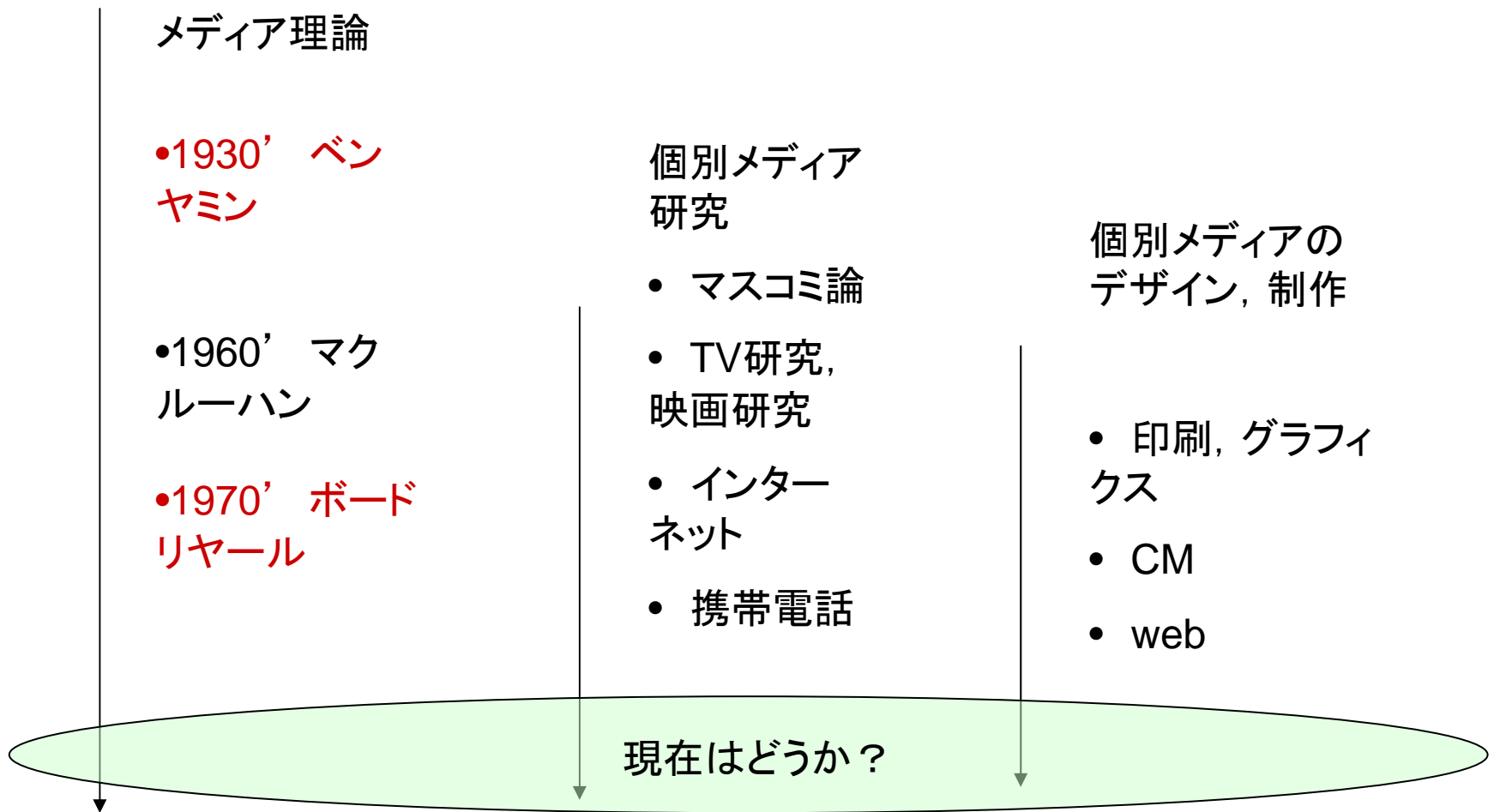
マクルーハンの業績

- ・ medium を単位にものを考えること（メディア論），個々のmedium に特性があるということ（メディア特性）を確立した
- ・ メディアの変化が時代や社会を変えるということを示したTVの普及によるあたらしい文化をとらえようとした

マクルーハンの限界

- ・ TVの登場までしか扱っていない
- ・ デジタルメディア等を含めた，全体的な見取り図を描くことができなかった
- ・ 細密度・参与度の妥当性が不明

マクルーハンの前後



ベンヤミン

- ・ ワルター・ベンヤミン
Walter Benjamin (1892-1940)

1931 『写真小史』

- ・ 1933 ナチスの政権成立とともに、パリ亡命

- ・ 1934 パサーージュ論の草稿作り。『パリ---十九世紀の首都』の執筆。『複製技術自体の芸術作品』第一稿成立。

- ・ 1936 「複製技術時代の芸術作品」が、クロソウスキーの訳で『社会研究誌』に掲載

- ・ 1939 第二次大戦勃発。いったんヌヴェールの収容所に収容されるがまもなく釈放。「ボードレールの幾つかのモチーフについて」

- ・ 1940 パリからルルドへ、そしてスペインへ。国境の町ポル（ト）・ポウで服毒自殺



ベンヤミン

「複製技術時代の芸術作品」(1936-)

- **複製技術**
19世紀産業革命以後、写真など、1つのオリジナルから大量に複製を作る技術が発達した
- **アウラ(=オーラ)**
複製ではないオリジナルが持つ、そのものだけの、一回きりの、崇高かつ不気味な何か
- **アウラの消滅**
20世紀には複製技術によって、アウラが消滅しつつある

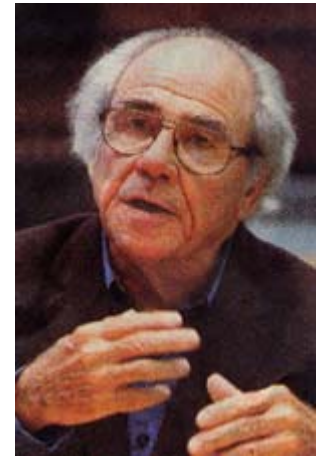
ボードリヤール

ジャン・ボードリヤール

(Jean Baudrillard, 1929–2007)

フランスの思想家

大量消費時代を迎え、商品が使用価値としてだけでなく、記号として立ち現れることを説いた。



『物の体系——記号の消費』 (1968)

『消費社会の神話と構造』 (1970)

『シミュラクルとシミュレーション』 (1981)

『湾岸戦争は起こらなかった』 (1991)

ボードリヤール

- シミュラークル(模像)

オリジナル(原型)に対してコピー(複製)が作られる
大量消費時代, デジタルの時代には, オリジナルがどこにあるのかさえ不明になる

オリジナルを欠いた複製物を, 模像(シミュラークル)とよぶ
cf. PCのシミュレーション

- ハイパーリアリティ

シミュラークルは, リアリティよりもよりリアルであり, それをハイパーリアルと呼ぶ

ex. ディズニーランド, CGシミュレーション